

# 3月の野菜の見通し

平成30年2月22日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
だいこん		12,181	90%	12,764	94	138%	82	-	-	神奈川県産の春作は、圃場によって欠株があり、初期生育の不良もあって平年作を下回る。千葉産の主力地域は3月上旬出荷まで計画通り播種ができておらず不足感あり。中旬以降、播き直し分の出荷が始まり増量の見込みも、現状、低温により生育遅れ気味。低温続きで総体の肥大は例年より小ぶりの仕上がり予想される。総体の予想入荷量は年比90%。上旬まで不足感は強いが、3月は需要も落ち着き、中旬以降は千葉産の播き直し分の増量もあり下げ気配強まる見込み。上旬まで価格は高水準のため、月計価格は前年、平年よりも大幅高。
はくさい		7,238	前年並 ～ やや減	7,741	130	108%	90	-	-	終盤を迎える茨城産の秋冬作は小ぶりの仕上がり。春作は早い圃場から3月中旬から出荷開始の見込みだが、現状、生育は遅れ気味。兵庫産の冷蔵物は中旬から出始めるが、貯蔵量は前年より少ない見通し。前年同様、中央集約化の動きも見られ、総体の予想入荷量は前年並～やや減。月前半は茨城産秋冬作の減り込みにより上げ気配強まり、下旬には春作の増量により下げ気配強まる。消費地の天候の影響大だが、冷蔵物の価格高もあり、価格は基調高の前年以上。
キャベツ		17,423	90%	17,671	124	137%	93	-	-	各産地とも株は植わっており、気温上昇にともない生育遅れも回復が期待されるも、長引く低温と出荷前倒しにより、引続き小玉傾向の見込み。総体の予想入荷量は順調だった前年の1割減。中旬以降は増量にともない軟調推移となるも、全国的な流通量は平年を下回る見込みから、価格の下げ幅は小さく、価格は高値の前年以上。
ほうれんそう		1,461	90%	1,492	399	113%	422	-	-	長引く低温のため生育遅延が見られるが、各産地とも播種はできているため、気温の上昇に伴い遅れも回復し、増量の見込み。露地物は少ないままだが、ハウス物中心に増量に向かう。遅れの回復次第だが、総体の予想入荷量は年比90%。2月末から3月にかけて好天であれば、3月上旬は増量と高値反動により相場は下げ足早まるも、中旬以降は荷動き良く相場安定の見込み。価格は基調安の前年より高く、平年比でもやや高。

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
ねぎ		4,026	105%	4,252	344	87%	288	17	0.4%	3月は気温上昇にともない降霜等の影響なく、現状より出荷安定が見込まれる。終盤の秋冬作は例年より太物は少なく、下位等級品の比率は例年より高いが、量的には不足なし。3月20日頃から春作も出荷本格化の見込み。総体の予想入荷量は少なかった前年の105%。増量とともに3月に入るとねぎ需要も落ち着き、上中旬は下げ気配強まる。価格は高値の前年より安いが高年比では高。
きゅうり		6,556	95%	6,237	283	106%	315	-	-	各産地とも低温ながら生育は概ね順調。花着き、着果状況とも目立った問題はなく、気温上昇にともない春作は増量に向かう。極端な天候変動がなければ総体の予想入荷量は潤沢だった前年の95%とやや減も平年並み。中旬以降は関東産春作の増量に伴い弱めの展開が見込まれる。価格は基調安の前年よりやや高も平年比ではやや安。
トマト		6,750	95%	6,297	372	102%	440	-	-	1~2月の低温続きで、現状、色回りと肥大は遅れ気味だが、花着き、着果状況は安定しており、3月は平年作の見込み。総体の予想入荷量は潤沢だった前年の95%も、ほぼ平年並み。3月は春作が出揃い量的に不足はないが、中旬頃に春商材として引合い強まり、上げ気配強まる。価格は前年並みだが、平年比ではやや安。